

平成29年4月4日(火)

老球の細道317号

## オレは違うな

会津バスケットボール協会 室井 富仁

【作家の故山口瞳さんがサントリーの宣伝部にいた年、ちょうど前の東京五輪(1964年)があった。観光客であふれる東京。そんなとき、山口さんはトリスウイスキーの新聞広告を書いている。(当時のTVによるサントリーのコマーシャルも絶品であった)。

「みんな、山を見る

オレ、川を見る

みんな、東京に集まる

オレ、旅に出る

テレビで観る

トリスを飲む」

このキャッチコピーに、旅先の宿でトリスを飲みながらテレビで五輪中継を見ているアングルトリスの絵。そこにあるのは、五輪ブームに背を向けても五輪はちゃんと見ているぜという男の姿だ。(2013年朝日新聞コラム『CM天気』より)】

このコピーのように、流行を泳いで、溺れない。ひとりよがりとか人を寄せつけない生き方ではなく、透明なオレ流を貫く「ソロ・サピエンス」に私も憧れる。

強いチームを創るには選手のリクルートがものをいう。強い選手、上手な選手をたくさん集めたチームは勝てる可能性が高い。残念ながらこれが現実である。だから、チーム強化とか選手強化という優れた素材を集めることが主流になり流行する。しかし、現実的にそのようなことができるのはごく限られたチームのみである。バスケットボールに関して言えば、お金のある私立高校、何度も優勝している名門伝統校等。それ以外の大多数のチームは、たまたま集まってきた選手、その地域に住む選手、その学校にしか入学できなかった選手でチームを創る以外ない。スポーツの地産地消である。

会津地区から全国大会チームを、オリンピック選手を。現代の主流で流行する「選手リクルートに」頼らず、地産地消のオレ流で前述目標をやり遂げるには何が必要か。それは人間育成の王道、ジュニア期に地域全体でしっかり基礎を作ることではないだろうか。ファンダメンタルを鍛えること、楽しさを教えること、基本的な生活習慣を確立させること等。

上達するには練習するしかない。近道はない。正しい練習あるのみ。正しい練習とは、悪い習慣を取り払い良い習慣を身につけること。悪い習慣は力を出し惜しみすることから始まる。良い習慣は全力を尽くすことから身につけていく。基礎練習は一生続く。同じことの繰り返しは飽きて手抜きをしそうだが、スキルは同じ「できる」にしても上には上がある。「五つの“い”」にしたがってレベルアップしなければならない。休めない。

- ①上手い・・・できなかったことが上手にできる。いつでもできる。
- ②速い・・・上手くできることがスピーディーにできるようになる。
- ③強い・・・上手く、速くできることがコンタクトに負けないでもできる。
- ④賢い・・・適切な状況判断でミスなくできる。
- ⑤室い(???)・・・自分の秘密兵器にり誰にもマネできないオレ流技に進化する。

本物はゆっくり育つ。ウイスキーのように熟成するのを楽しみに待つ。